

リスク管理アドバイザー

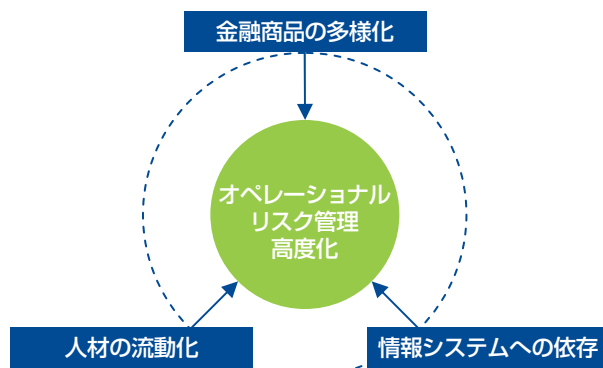
オペレーショナルリスク管理態勢高度化支援サービス

オペレーショナルリスク管理高度化の要請

金融業界においては、グローバル化、情報技術の高度化、複雑な金融商品の開発などの様々な理由によりオペレーショナルリスク管理の重要性が高まっています。銀行においては「バーゼルⅡ」*に現れる金融監督規制にもその成果が取り入れられ、オペレーショナルリスクに対する自己資本賦課が開始されています。このような環境の中で、各金融機関には、リスク管理を経営の重要な課題と位置付け、適切な整備・運用を実施することが要請されています。そのためには、法規制等の十分な理解とリスク管理に関する専門的なノウハウが必須です。

トーマツは、オペレーショナルリスク管理態勢に関し、基礎的な情報提供から、各行固有の問題解決まで幅広く関わり、Deloitte Touche Tohmatsuのグローバルネットワークを駆使し、最新の情報と豊富な実務経験に基づくアドバイザーサービスを実施します。

オペレーショナルリスク管理高度化の背景



*保険会社においては「ソルベンシーⅡ」として適用される予定です。

オペレーショナルリスク管理高度化への支援

オペレーショナルリスク管理態勢のフレームワーク構築・整備支援

オペレーショナルリスク管理は、市場リスクや信用リスクと異なり様々な業務にまたがった横断的な管理を実施する必要があります。リスク管理の高度化を行うにあたって必要な体制の整備、ツール導入のプロジェクト管理を首尾よく実施することが重要です。また、関与する複数の部署が共通の認識をもってプロジェクトにあたるのが重要であり、いかにリスク管理の重要性の認識を組織内で共有できるかが大きな鍵をにぎります。

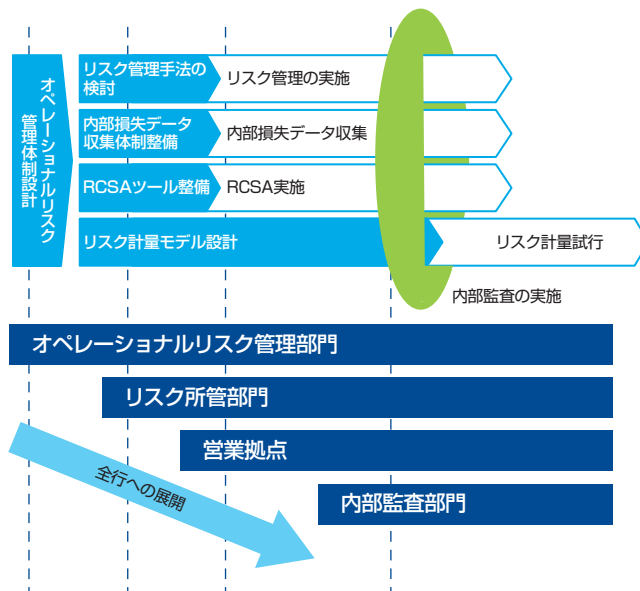
- ・ 管理フレームワークに関するワークショップ開催

トーマツではオペレーショナルリスク管理の高度化にあたり、まず何をしなければならぬかを整理するために管理フレームワークのワークショップを実施します。

- ・ 提示フレームワークの適合性検討・オペレーショナルリスク管理高度化実施計画策定

各行にフレームワークを適用するにあたっての課題の洗い出しを行います。さらにその課題解決案および達成すべき計画の策定を支援します。

フレームワークの構成要素と関与部署の広がり



定性的ツール導入支援

オペレーショナルリスク管理を行うにあたり、既存の事務リスク管理、システムリスク管理等に用いられている資料を精査し、オペレーショナルリスク管理の内容として過不足がないかを整理することが重要です。トーマツでは以下のようなツール導入支援を実施しています。

- 内部損失データ収集システム導入支援**
 従来から行ってきた事務事故・システム障害のデータ等を基礎に、その損失額、対応(直接・間接)費用等のより多くの情報を必要に応じ追加収集することが求められています。
- リスクコントロール セルフアセスメント(RCSA)の導入支援**
 定性的ツールにおいて最も有用なツールがRCSAです。全社のリスクを洗い出し、各業務部門がリスクに対するコントロール状況の評価を行い、その評価結果を収集するPDCAサイクルを構築することでリスクの対策を総合的に行うことを可能にするツールです。
- シナリオ分析の導入支援**
 過去の損失事象だけでは把握できない潜在的なリスク事象を全行から統一的なフォームを用いて洗い出し、評価を行うツールです。
- 事務プロセス分析の導入支援**
 自行でどのような業務が行われているのかを洗い出し、RCSAに結びつけ、事務改善を図ります。
- Key Risk Indicator(KRI)収集体制の構築支援**
 オペレーショナルリスクの高まりを事前に検知するインディケーター、いわば金融機関経営におけるコックピットに表示されるデータとなります。このような指標をいかに選び出し、どのように収集していくかは各々の重要な課題です。

定量的ツール導入支援

- 計量モデルの導入支援**
 オペレーショナルリスクの計量モデルは極めて多様であり、各金融機関のポリシーや状況を反映させるための創意工夫が求められ、多くの分析を必要とします。トーマツでは多数のクオンツによりサービスを提供します。
- データ詳細定義の支援**
 4要素と呼ばれる内部損失データ、外部損失データ、シナリオ分析、業務環境および内部統制要因は、モデルのコンセプトや適用範囲等を考慮してどのように有用なデータとしてリスク管理に反映させていくかを定める必要があります。

内部管理の高度化と規制要件

内部管理の高度化とともに規制要件を達成していくことが望まれます。トーマツでは規制で求められる内部監査部門によるオペレーショナルリスク管理の内部監査についても支援を実施しています。

内部統制の統合的管理

ステークホルダーの要請、様々な規制の導入により、内部統制が十分であることを確認する機会が多くなっています。現状においてはその目的毎に管理ツールを用い、同一の業務に関し何度もチェックを行っている状況と考えられます。トーマツでは、「行っている業務は1つであり業務を起点に統一的に管理を行うことが望ましい」と考えています。その1つの方法として、オペレーショナルリスク管理のフレームワークを拡張し、内部統制に関する可視化、管理の効率化を目指します。これにより内部統制報告制度(J-SOX)、顧客保護、個人情報保護等の管理の効率化が志向されます。

規制要件とトーマツのアドバイザリー範囲

* 参考文献



オペレーショナルリスク管理のフレームワークの詳細については書籍「バーゼルⅡ対応のすべて」(金融財政事情研究会)を参照

		バーゼルⅡの手法			
		基礎的手法	粗利益配分手法	先進的計測手法	
トーマツのサービス	フレームワーク策定支援				
	ワークショップ	●	●	●	
	適合性検討・実施計画策定	●	●	●	
	定性的ツール導入支援	内部損失データ収集	●	●	●
		RCSA	●	●	●
		シナリオ分析	●	●	●
		事務プロセス分析	●	●	●
		KRI収集	●	●	●
	定量的ツール導入支援	計量モデル導入	●	●	●
		データ詳細定義	●	●	●

● 実施が必要 ● 実施が望ましい ● 実施の構想を持つことが望ましい

定性的ツールの導入は、事務リスク管理、システムリスク管理、その他リスク管理においてそれぞれの対象部門と共にプロジェクトを実施します。

お問い合わせ

有限責任監査法人トーマツ 金融インダストリーグループ/FSI
 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル
 Tel : 03-6213-1162, 1163 Fax : 03-6213-1186

トーマツグループはデロイト トウシュ トーマツ(スイスの法令に基づく連合組織体)における日本のメンバーファーム各社(有限責任監査法人トーマツと税理士法人トーマツ、およびそれぞれの関係会社)の総称です。トーマツグループは日本で最大級のビジネスプロフェッショナルグループのひとつであり、各社がそれぞれの適用法令に従い、監査、税務、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリーサービス等を提供しております。また、国内約40都市に約6,700名の専門家(公認会計士、税理士、コンサルタントなど)を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はトーマツグループWebサイト(www.tohmatsu.com)をご覧ください。

Deloitte(デロイト)とは、スイスの法令に基づく連合組織体のデロイト トウシュ トーマツおよび相互に独立した個別的法的存在であるネットワーク組織のうちのメンバーファームのひとつあるいは複数指します。デロイト トウシュ トーマツとメンバーファームの法的な構成についての詳細はwww.tohmatsu.com/deloitte/をご覧ください。